

令和3年度（後期）選定 後代検定種雄牛

後代検定種雄牛「岡光増」は、産肉能力を確認するため、(一社)家畜改良事業団により、現場後代検定調査牛を生産する調整交配が実施されます。

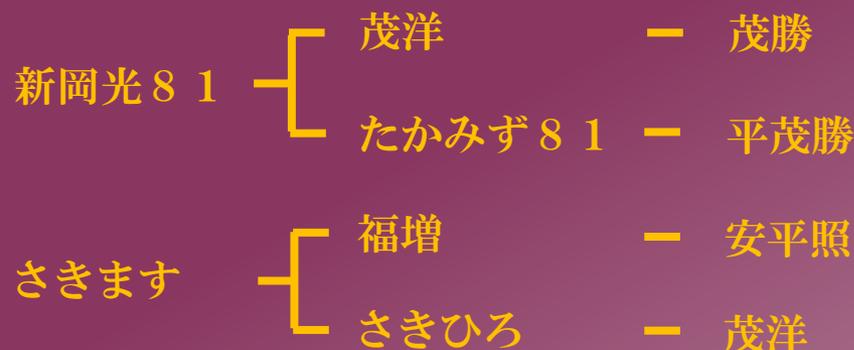
この現場後代検定において優秀な成績を収め選抜されると、畜産農家の方々へ凍結精液が供給されます。



岡光増 (おかみつます)

○生年月日 令和2年8月6日

○個体識別番号 13979-6396-1



○本牛の特徴

母「さきます」は、兵庫県を起源とする系統群である熊波系(茂金波系)の遺伝子保有確率が27%と算出された希少な繁殖雌牛で、父「新岡光81」は、現場後代検定成績において枝肉重量508kgと優れた成績を収めたほか、(一社)家畜改良事業団におけるオレイン酸割合(%)のG育種価が2.570と上位10頭(2022年2月時点)に位置する種雄牛です。

このような背景をもつ本牛は、枝肉重量等の産肉性や脂肪の質の改良のほか、熊波系種雄牛として黒毛和種における遺伝的多様性の確保にも貢献が期待できる後代検定種雄牛です。